



11/10(金)
11(土)
12(日) いちよう祭りかさおか
13(月)
14(火) おかげいち いきいきチャレンジたいけん(~17日)
15(水) 七五三
16(木)
17(金)
18(土) かさおか障害者スポーツ大会
19(日) べいふあーむ笠岡マラソン大会
20(月) 青少年健全育成推進大会
21(火)
22(水)
23(木) 勤労感謝の日 森田思軒顕彰講演会
24(金)
25(土) 優秀映画鑑賞会 認知症介護研修センター講座
26(日)
27(月)
28(火)
29(水)
30(木)
12/ 1(金) 歳末助け合い運動(~31日)
2(土)
3(日)
4(月) 人権週間(~10日)
5(火)
6(水)
7(木)
8(金)
9(土)



金浦中学校3年生  
北村 直也くん

怪 我を恐れず  
高難度の技に立ち向かう！

10月21日、22日に行われた、第24回全日本ジュニア新体操選手権大会に出場した北村君は、毎日学校が終わって井原市内の練習場へ通い、3時間のハードな練習をこなしています。中学校1年の終わりから新体操を始め、「バック転や宙返りなどの新しい技が出来るようになったときがとても楽しい。」と話してくれた北村君。怪我と戦いながら、難易度の高い技に挑戦するときの恐怖心からスランプに陥ることもあるそうです。そんなときは、同じ経験をしてきた先輩から練習後にアドバイスを受けて、克服しているそうです。中学校卒業後も新体操を続け、インターハイ出場を目指すという北村君。「新体操は競技人口が少ないので、多くの人に興味をもってもらい、ぜひ挑戦してください。」と笑顔で語ってくれました。

森田思軒(本名は文蔵)は明治時代に翻訳家・批評家として名をとどろかせた人物です。文久元年(一八六一年)笠岡市に生まれ、慶応義塾、興譲館(現井原市)に学んだ後、明治十五年(一八八二年)に上京して郵便報知新聞社に勤めました。やがて同新聞で



森田思軒の墓  
市指定史跡

歴史を訪ねて  
笠岡市の文化財

事実上の編集責任者として手腕を発揮し、西洋の小説を日本語で紹介する翻訳小説を掲載するようになります。また、徳富蘇峰が主宰する『国民之友』に多数の翻訳文を寄稿しています。郵便報知新聞社を退職後も、多くの雑誌に翻訳・批評などを発表しました。特にフランス文学ではピクトル・ユゴの『探偵ユーベル』、ジュール・ベルヌの『十五少年』(現在では『十五少年漂流記』が一般的)などを翻訳して、西洋文学の魅力を広く大衆に紹介し、「明治の翻訳王」とも呼ばれています。先述の徳富蘇峰のほか、幸田露伴、森鷗外らとも親交がありました。森田思軒は明治三十年(一八九七年)十一月十四日、三十六歳のときに病死し、東京根岸の世尊寺に葬られました。郷里笠岡にも分骨して墓がつくられました。このお墓は笠岡小学校の裏手の墓地にあります。例年十一月には森田思軒をしのぶ講演会が開催されており、今年も十一月二十三日